

十割抄卷上 末

第二可離橋場事

或人いゝく人乃世々わが留橋場とえして
根便あらはさくわがわが自由
とるわがからたあまは我のいゝむとはわが
中川とるなりとぬくわがわがわが
をとりわがわがわがわがわがわが
は偏挑くしてわがわがわがわがわが
とるわがわがわがわがわがわがわが
わがわがわがわがわがわがわがわが

少とて免て免れぬ人となすわがわが
うらとわがわがわがわがわがわが
みられぬわがわがわがわがわがわが
く人とてわがわがわがわがわがわが
わがわがわがわがわがわがわがわが
と免れぬわがわがわがわがわがわが
わがわがわがわがわがわがわがわが
くわがわがわがわがわがわがわがわが
書みくわがわがわがわがわがわがわが
わがわがわがわがわがわがわがわが

こ終じし人ハよにんを以て我月と云
ほすすこをさうとハ母世也と云まう
おし志終り申せられたるの事くくしてハ一
とやう人々と有る事都なり或るつらま
けり事なりと云ハ立居れりたるは
月と云くおこる御さなりおかこる
れり及びし人なりと云ハおれりて
しりかこれり是くありて終りて涯と云
ない後極とありて云ハこれに多し身を
りとおじりていといふと云れはと云

と曰白とかと云と人目と云と云せは
とつて一と云んはまうなりと云なり
わつたやうな終りて成ると云作を
とされたりと云れりしと云のなつて
さうハの建と云るは日おらうと云ハ
と云人女男のれと云れ立りてはと云
にやてりしと云の事なりと云ハ
先と云下下子傳と云又と云孤と云人
源叔教と云てと云人と云れと云り
や叔教と云と云と云乃女と云人

と抄こび宿於人なるハ之れをかくび疎の爲
とけあさこれくそふとく九多能志之居
と評し多しり内表の文といひく

家好儉素不祭龍洞之愁
禄教陳紅恐乖孤丘之誠

と文時心のをもとるや大方せくをねらう
しくあまむ少くむとくア氷をむじうそ
わやくくもせしさあふく早をのむようそ
まし此もななり莊子とてさふふく木を
切とわりのそくあると後切ゆらるとそす久

れ教くとるうもふく家し居二ありあり
く時とけいああると後さうしりわく家
目才子莊子くゆていり此日の中木をく
けんとけさうくゆらると後さうす又家乃
二乃居くあひいけりうらとら一のり
そこしけりこもあ海さぬも莊子い
世中たあきしめしわくと答ふぬ
くあひのりくもくそまんとして
とつしむへしそくす

木馬一篇源記取致身材与不材間

とわはらなり入階子衡り文賦下

在木岡木村之質處為令善鳴之分

ととわをり入藤篤茂の白ゆと

昨日山中の木才取於己

今庭前之花詞慙於人

首人乃濁きる城根を挽り陰流に沈

世乃政のしるしと歌形をかく首陽乃

ととふへ一人わらりけいホをいさし(三を

足く伊と次うるとをりていなりと世寒ゆ

早といふれくして懐疑尸位去る人といふ

まじりぬれあはれなり(吾長下といはむ

と携乃倚卒の海とい

楚三閭終何益周伯表飢未必賢

やいぬれれ時ふしぬれぬれぬれぬれぬれ

況や賢才とわたりし人なり

世とつらしむるむじやうかごとく

けいそんを記をたすへとあつくと

あやみ満ととをうりてなり

小野小町着て女を如し人そをたし

しりうとぬれぬれり威表記と云ふ

三皇五帝乃后と漢皇周王此書といふこと
いふことありさしはとていし内道には衣と帛備
ふくをたるとも分合は海陸乃好と銅男
たらんしわと白く口は利あると鍊しと
よ後の乃わかるとははゆりくつと花といふこと
世清后くくわいけくむきくくくく十七小
一と母とくくくく十九くくく父くくく
か一くくく先くくく先女くくくは才とく
ゆきくく一は單孤之類乃ひくく人くくく
よきくくくくくくくくくくくくくくくくく

よれや、あ、さ、ら、ひ、ひ、く、く、す、ら、ひ、ひ、と、も
神をさくくくくくくくくくくくくくくくくく
家くくくくくくくくくくくくくくくくくく
巻のくくくくくくくくくくくくくくくくくく
又、世やまひくくくくくくくくくくくくくく
伊となはくくくく

わがおまじはあとうり葉は根とて

こそよふありつはいなきとて

かしくんくくくくくくくくくくくくくくくく
はか山くくくくくくくくくくくくくくくくく

悔一をいしとわろく人

文集一卷の函詩くもかこつハ抱れそふなり
をハハれおころなりとも日やそ古為梁ふ
檢むおころなりとも今在目ともかきま
そ志つれこなりす吳王母これ姑蕙臺秦北
皇此感湯宮れころをさそあう海一さきハ
わろく一わこれ由免くあらほされくも
ほろくくかろく此涼火、河原院の賦くも
ふろくくわろくわろくわろく

強吳滅而有荆棘 姑蕙臺之露瀼々

暴秦襄而无虎狼 感陽宮之煙斤々

中よと唐左家のの涉河 魏徽まのりりしとみ之
乃亦成定中りりしとみ

贊鹿臺之寶衣 賤阿房之廣殿 懼

危亡於峻宇 思安處於早宮 則神化潛

通無為而治德上也

とわろくくそ負觀政要くくしあろくく儉物
政わろくくやいこく目出くけき乞く帝道
乃一車くわきらり唐人のあろくくい
まそけいんくぬりくく鹿臺阿房ハ殷紂秦

皇の文定なりとみ干れ上慢を佛とよぶ人をも
一もす擢尊法華と名流流し一四座をさく
退りかまき罪根深き一慢と慢ありて何
まも流しんと木り元いままこゆるとえり
とかよふくれしとの大慢慢あり一衆なり
不涯比丘をわ人海とれしに我深敬汝等不
敢輕慢と唱へ杖木瓦石ととく一の心
然るも心と心とを先中してはかへり
怖とゆめしき後世ありて心のゆめと必
おこゆるとをれぬし

第三不可侮人論

或人いよく人をわがほりこは父を多しと
かある事なり或をまのくも一きともあ
ひく或をよくなるとわれは或はわきま
下まると侮りしことと下まるとさる
くそやうに或をさるしとびのあをわ
つたさるしとれは及不可行んし
かぬやとていふ一とれをさるしと
まふしとほつとてあをさるしと
おこゆるとさるしと